

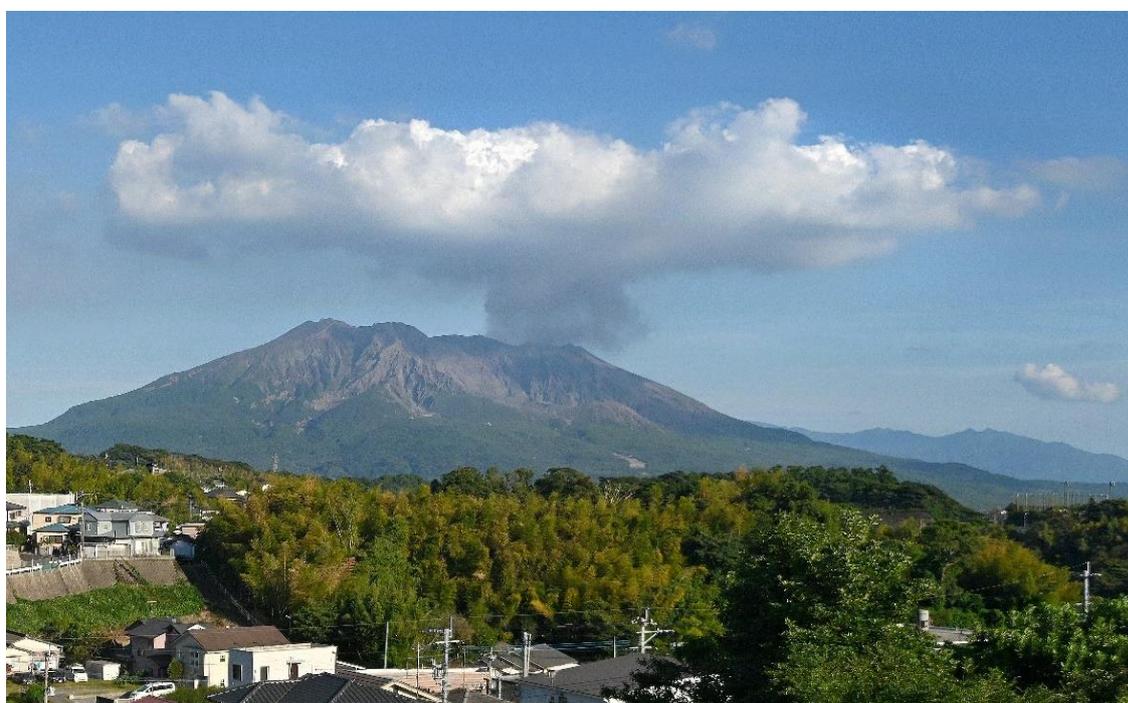
みんなが主役 笑顔あふれる坂元台

【 校 区 振 興 計 画 】

坂元台校区まちづくりプラン

2023 年度～2027 年度

(令和 5 年度～令和 9 年度)



坂元台校区まちづくり協議会

所在地 \ 〒892-0863 鹿児島市西坂元町58-2(坂元小学校内・校区公民館)

電話(099)800-2243 Fax(099)800-2371 E-mail:sakadai-machidukuri@cvn.bbiq.jp

【 目次 】

◆ 坂元台校区まちづくり協議会って何ですか？	1
I まちづくりプラン策定にあたって	2
1 第2期まちづくりプラン策定のねらい	2
2 坂元台校区の地図	3
3 校区のすがた	4
(1) 校区の歩み	4
(2) 校区の概要（人口等の推移）	4～5
II 第1期の振り返り	6
1 部会ごとの第1期の成果と課題	6～9
2 第1期の活動の記録	10～14
III 第2期まちづくりプラン	15
1 協議会の活動方針	15
(1) 計画の期間	15
(2) まちづくりの目標	15
① スローガン	15
② 運営方針	15
③ 活動重点目標	15
2 まちづくり協議会の組織体系図	16
3 活動の体系表	17
4 坂元台校区まちづくりプラン（振興計画）	18～23
IV 資料	24
「第2期まちづくりプラン」策定委員	24

坂元台校区まちづくり協議会って何ですか？



坂元台校区まちづくり協議会って何ですか？

坂元台校区の7町内会で作っている組織ですよ。さらに、校区内の学校・保健施設・福祉施設・色々な自主団体にも構成団体となってもらい、事業に携わってもらっています。



とすると、校区に住んでいる私たち全員が会員なのですね！
たとえば、どんな行事があるのですか？

防災研修会、楽しいラジオ体操、校区親善球技大会（グラウンドゴルフ・ソフトバレー）、子育てサロン、校区大運動会、青少年健全育成推進大会、校区生涯学習発表大会、せばる隼人舞祭り等、たくさんありますよ。



いろいろな行事がありますね。

校区の皆さんと協議会とが力を合わせて、住みよいまちづくりを目指して、「たのしい！」と思えるいろいろな行事を、6つの部会の方々が考え、この「まちづくりプラン」で計画し、実施する予定です。



経費はどのようになっているのですか？

坂元台校区まちづくり協議会の事務局はどこにありますか？

校区の町内会からの負担金と、市の補助金等で運営されています。
事務局は、坂元台小学校の校区公民館の1階にあります。



ありがとうございました。行事もいろいろあって楽しそうですね。私も参加してみます。

I まちづくりプラン策定にあたって

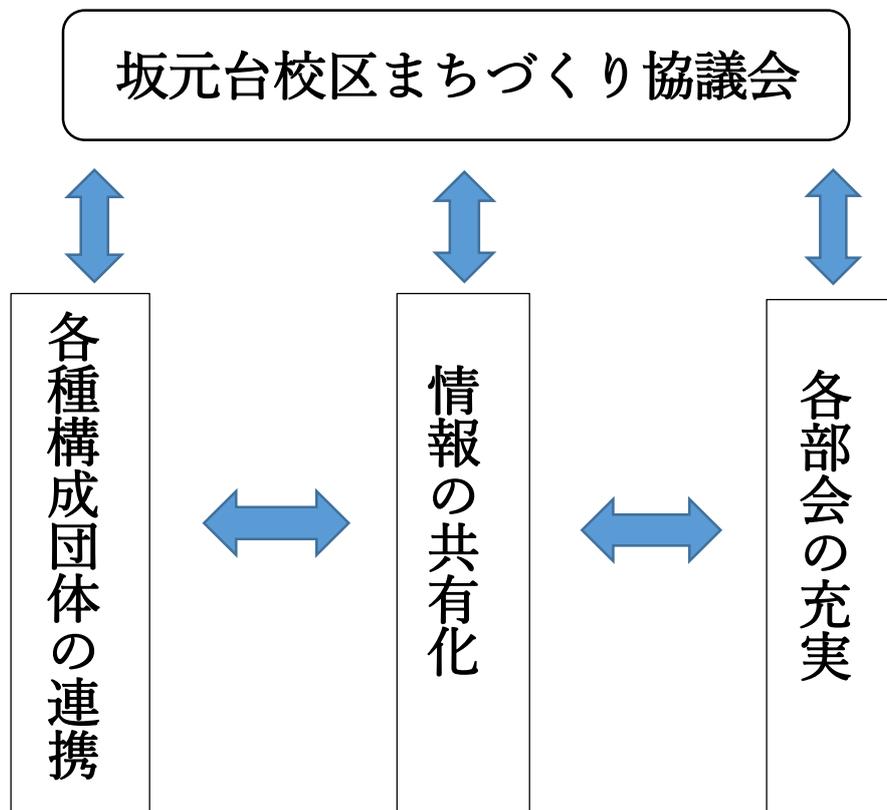
1 第2期 まちづくりプラン策定のねらい

少子高齢化・国際化及び情報化の進展する社会において、自分たちが住む坂元台校区をどんな町にしたいか将来像を思い描き、地域の課題の解決や人・自然・歴史等、地域資源の活用などに取り組んでいくための具体的な計画です。

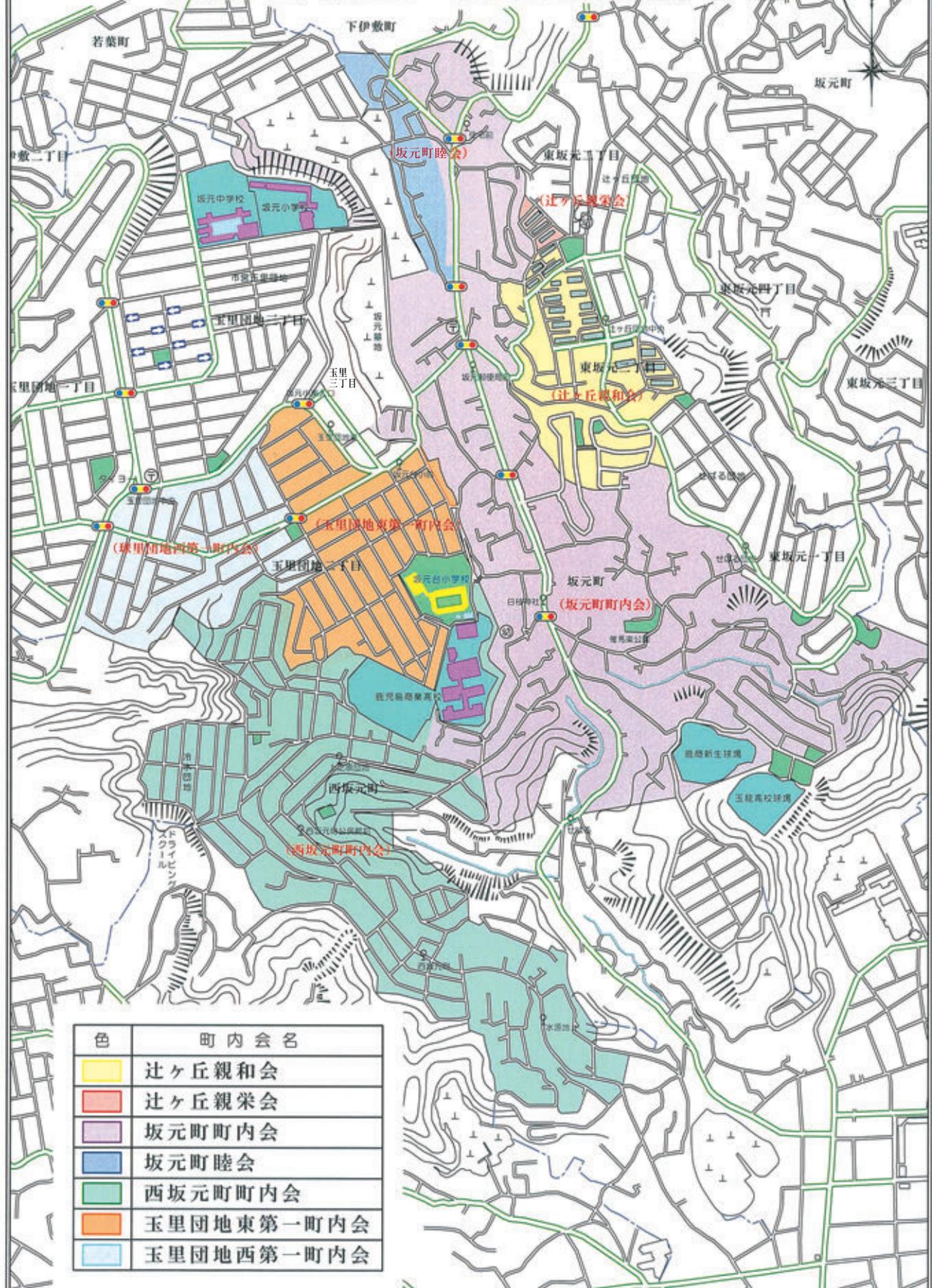
坂元台校区の各種団体が連携・協力しながら向こう5年間取り組んでいきます。

坂元台校区まちづくりの目標

「みんなが主役 笑顔あふれる坂元台」



坂元台校区 町内会区割り図



3 校区のすがた

(1) 校区の歩み

校区は標高 120 メートルに位置し、東に錦江湾に浮かぶ桜島を望む景勝地にあり、土地はシラスに覆われ、起伏のある地形になっている。校区は坂元町の一部、東坂元二丁目の一部、玉里団地二丁目、西坂元町でなっている。校区周辺の開発は、西坂元町の上ノ原団地が昭和 37 年から昭和 41 年にかけて、18ha・500 戸が宅地化され、東坂元二丁目の辻ヶ丘団地は、昭和 40 年から昭和 42 年にかけて 16ha・700 戸が宅地化されたところである。

玉里団地は、昭和 44 年から昭和 48 年にかけて、97ha・2500 戸が宅地開発され、その二丁目だけが校区に編入された。

また、新興住宅地にはさまれるように、県道鹿児島蒲生線沿いに坂元町の街並みが、せばるバス停から坂元住宅前バス停まで続いている。

坂元台校区の活性化と青少年育成を図るために、平成 4 年に復活した「せばる隼人舞」は、現在、保存会を中心に毎年 11 月 23 日（祝）に、坂元台小・坂元中・鹿児島東高校・鹿児島商業高校・成人同好会で舞が披露されている。

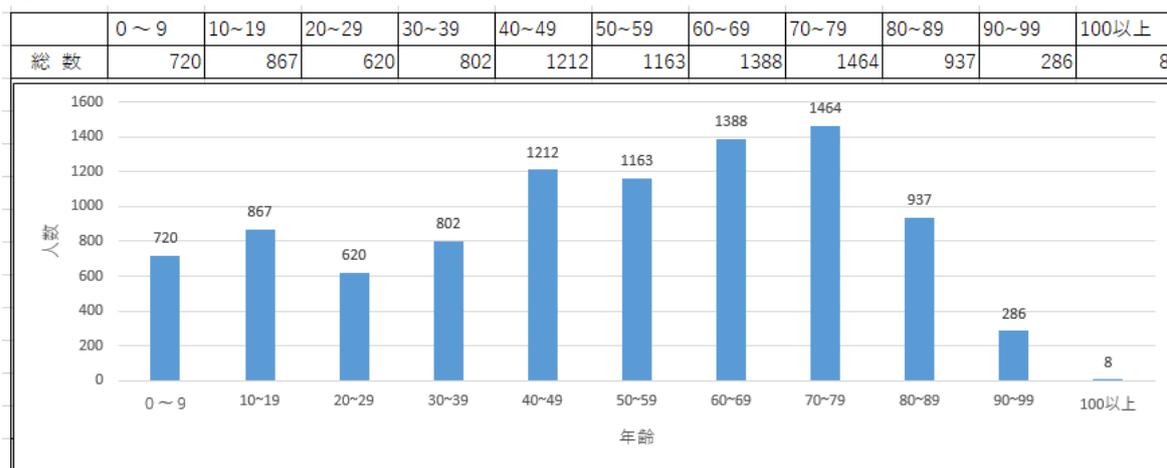
地域住民は、県内各地からの転入者が多く、校区・町内会活動への関心は高く、また、青少年育成にも積極的に努めている。

校区は、玉里団地西第一町内会、玉里団地東第一町内会、西坂元町町内会、坂元町町内会、辻ヶ丘親和会、辻ヶ丘親栄会、坂元町睦会の 7 つの町内会があり、それぞれの町内会の実情のもと親睦を図りながら、青少年育成、安心安全なまちづくり、健康づくり等に取り組んでいる。また、社会福祉協議会、あいご会、老人会、おやじの会等、各種団体の活動も盛んである。

(2) 校区の概要（人口等の推移）

① 令和 4 年度住民基本台帳年齢別人口（10 歳階級）

令和 4 年 4 月 1 日現在



※坂元町・東坂元二丁目には、他校区も含まれる。

② 小学校・中学校の児童数・生徒数推移

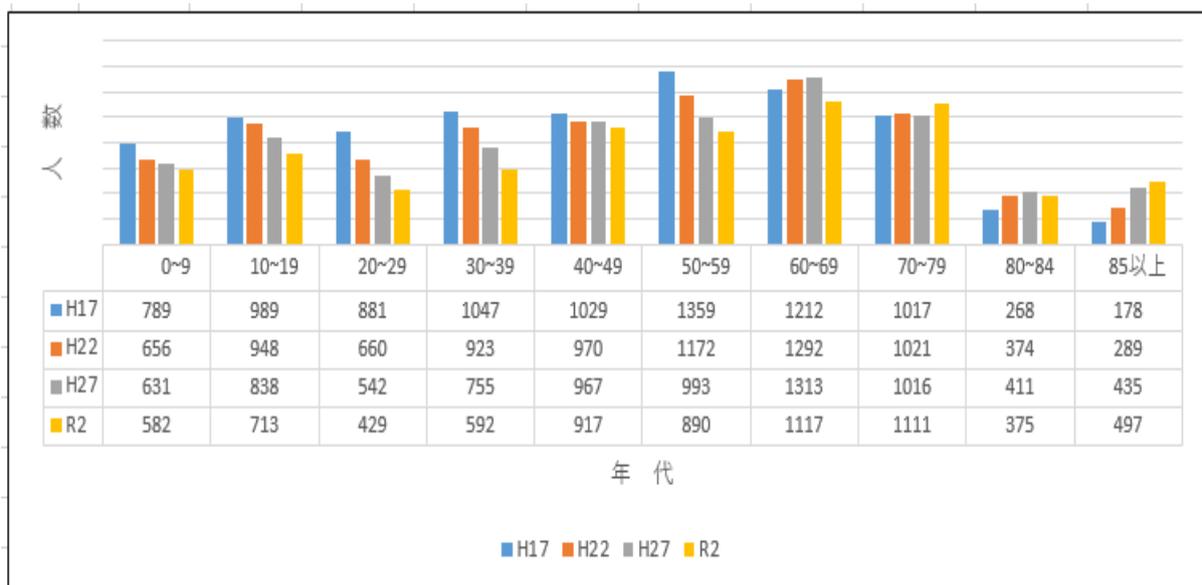
※各年度 5 月 1 日調べ

	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
坂元台小児童数	5 1 6	4 5 6	3 9 3	4 1 5
坂元中学校	4 8 2	4 8 3	4 0 3	3 8 8

③ 坂元台小学校区の世帯数・人口の推移（国勢調査）

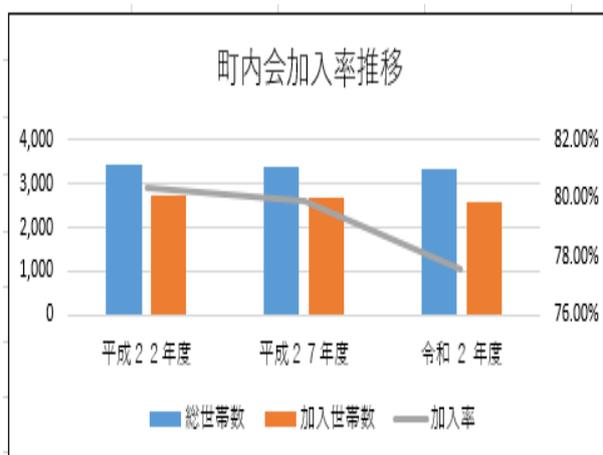
年 度	世帯数	人 口			高齢化率 (65歳以上)
		総 数	男	女	
平成17年	3,485	8,769	4,044	4,725	23.0%
平成22年	3,422	8,317	3,803	4,514	27.6%
平成27年	3,371	8,014	3,667	4,347	32.1%
令和2年	3,340	7,602	3,469	4,133	35.8%

④ 年齢別人口（10歳階級）※一部5歳階級（国勢調査）



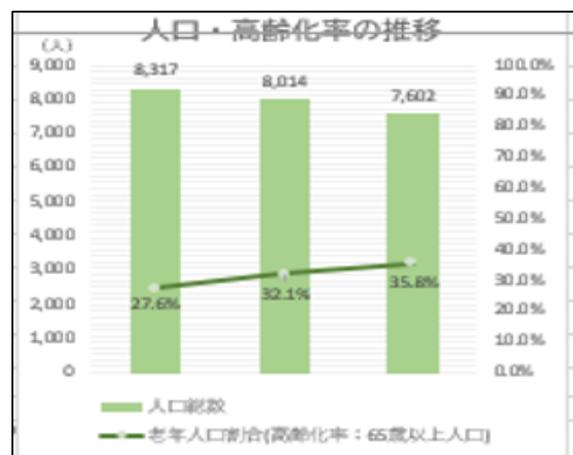
⑤ 町内会加入率の推移

年 度	総世帯数	加入世帯数	加入率
平成22年度	3,422	2,750	80.4%
平成27年度	3,371	2,695	79.9%
令和2年度	3,340	2,592	77.6%



⑥ 人口・高齢化の推移

年 度	15歳未満	15~64歳	65歳以上
平成22年度	13.2%	59.2%	27.6%
平成27年度	12.6%	55.3%	32.1%
令和2年度	12.7%	51.1%	35.8%



II 第1期の振り返り

〈第1期まちづくりの目標：スローガン〉 「みんなが主役 笑顔あふれる坂元台」

1 部会ごとの第1期の成果と課題

(1) まちづくり部会

◆ 成果

- 7つの町内会それぞれが、青少年育成・防犯活動等の啓発に取り組んでおり、その効果は顕著であることから、今後も継続して活動を続ける必要がある。
- せばる隼人舞は、県内でも類をみない特色ある郷土芸能であり、校区自慢の行事として定着してきている。
- 清掃活動については、7町内会の有志の団体「いきいき坂美会」が行っている毎月の県道清掃等により、ごみの少ないまちづくりが進んでいる。
- 児童へのあいさつ運動や交通安全見守り活動等において、大人からだけでなく児童からのあいさつが増えてきており、活動が浸透している。
- 広報誌「せばる」は、内容を充実し、2020年度からは年1回発行しているが、かなり定着してきている。[校区社協の広報誌(年2回発行)と広報対象者・記事内容が重複する部分があることから、まちづくり協議会は年1回発行することとした。]

◆ 課題

- 高齢化や共働き家庭の増加により、町内会活動への参加について、検討・工夫が必要である。
- せばる隼人舞の校区住民への浸透をより図り、隼人舞祭りへの参加者を増やすため、幼稚園児・児童・生徒・高校生・保護者に呼び掛ける工夫が必要である。
- 空家等が増えており、青少年育成・防犯・防災等から、関係者・関係機関等と連携し、対策を講じる必要がある。
- ゴミのない美しいまちづくりをより一層推進するため、各町内会と連携し、校区一斉に行う「校区美化推進活動の日」(仮称)を設ける。
- 広報誌「せばる」は、親しみやすい紙面構成を工夫する。

(2) 安心安全部会

◆ 成果

- 年1回の校区防災研修会は、各部門の専門家を講師として招聘し、講話を中心に防災・防犯についての理解・意識向上を図っている。校区各町内会でも、校区防災研修会を受けて、防災・防犯についての対策を実践している。
- 各町内会は、毎年暗がり調査等に基づき防犯灯を設置し、安心安全なまちづくりに努めている。
- 防犯パトロール(青パト3台)や、朝夕の通学路の見守り、子ども110番の家の設置等により、子供の安心安全な通学に校区一体となって取り組んでいる。
- 危険箇所マップを、スクールゾーン委員会を中心に作成している。

◆ 課題

- 最近の異常気象に伴う大雨災害や、身近な桜島の火山爆発について、日頃から緊張感をもって対応できるように、研修会の充実を図る必要がある。特に坂や崖の多い本校区では、早目の情報把握や避難が望まれる。
- 校区防災研修会を、より充実した内容とするために、講話や実践・実技をもっと工夫したい。
- 災害時の要援護者の支援について、校区・町内会で関係団体と連携して組織的に検討し、体制を整備・確立する必要がある。
- 各町内会において、医療従事者（医師・看護師）の所在を把握しておく必要がある。
- 緊急災害時に、各町内会で車両の提供に協力していただく方のリストアップをしておく必要がある。
- 防犯灯については、樹木に覆われるなど見えにくいところがあるので、絶えず点検する必要がある。
- 子供への声かけ事案等も多く発生しており、特に下校中の子供への見守りを、地域で実施する必要がある。
- 防犯パトロール隊の充実や、防犯カメラの設置等を図る必要がある。
- 危険箇所マップ等は、校区の各家庭への配布等も考慮する必要がある。
- 青色パトロールの後継者問題に取り組むこと（早急に）。

(3) 福祉健康部会

◆ 成果

- 平成30年度と令和元年度の2年間は、高齢者と子供たちのふれあいを目的とした“ふれあいグランドゴルフ”や“ふれりんぴっく”を多数の参加者で実施したが、令和2・3年度はコロナ感染症予防のため中止し、令和4年度は感染防止対策を徹底のうえ規模を縮小して実施した。この行事は、校区の高齢者同士のコミュニケーションなど、「とても良かった」と多くの声が聞かれたので今後も継続したい。
- コロナ感染予防対策で自粛期間もあったが、お達者クラブは全町内会で実施し、よかよか体操も3町内会で定期的に実施している。また、ふれあい昼食会は1町内会で定期的に、ほかの町内会も不定期ながら年間をとおして1・2回実施しており、高齢者の活発な地域活動は、今後も支援していきたい。
- 子育てサロンについては、社協の福祉委員（民生委員）と市保健所や幼稚園の協力で年10回実施し、子育ての母親から好評を得ているが、近年少子化の影響で参加者数が少なくなり、令和3年度・4年度は年7回にしている。今後は、町内会でも若い夫婦の世帯が増えている現状から、年10回の実施に戻すことも考えられる。
- 校区健康大学の直近の活動として、令和2年12月に南風病院の毛利先生による“年末年始の家庭で取り組むコロナ対策講座”を実施した。予想を上回る30名以上の聴講者があり、コロナ感染対策に対する関心の高さを感じた。

◆ 課題

- 校区での独居高齢者における自宅での孤独死や、病気で2・3日動けず、それに近所の

人が気づいて救急車で運ばれて事なきを得た例も2・3件聞いている。民生委員では、独居高齢者の“見守り活動”に大きなウェイトをおいているが、町内会の役員の方や老人会でも日頃から独居高齢者に注意を払うことが望まれる。

- “ふれあい昼食会”や“よかよか体操”への参加は、健康や認知症予防にも効果的であり、町内会等で工夫して多くの高齢者が参加できる環境を整える必要がある。
- 高齢になってからの、自助に有効なラジオ体操や健康体操への参加を推進する。
- 医師による健康講座や、教養を高めるための鹿児島市の“出前講座”での勉強会も必要である。
- 最近聞かれる“買い物難民”に対して、移動販売店の誘致や気軽に利用できるデイサービスの推進も考えられる。

(4) 青少年育成部会

◆ 成 果

- 期間中毎年実施してきた「青少年健全育成推進大会」・「立志の集い」や、隔月実施の「歩こう会」、また校区内の多数の箇所で行われている通学路補導、それに学校の熱心な取組により、校区内の児童生徒に「あいさつ」「礼儀作法」「健やかでやさしい心」が育まれていると多くの住民を感じるほどになっている。
- 町内会、あいご会、校区内各事業所で、子供に楽しい思い出を作ってもらおうと、子供が参加する行事をそれぞれ実施してきた。
- 校区まちづくり協議会において、各行事の開催日程の調整が行われ、同日開催が解消されて、多数の参加者が確保できるようになった。
- 青少年育成部会の各事業実施の際には、校区まちづくり協議会の適切な連絡・調整により、各団体・事業所の協力・応援が得られ、事業をスムーズに実施、運営することができた。
- 坂元台小学校PTA活動において、「子どもネット依存」が社会的に取り上げられ、生活の乱れやネットいじめの問題、あらゆる事件・事故に巻き込まれることを未然に防ぐためにも、まず保護者が状況を把握することが重要と考え、2021年11月25日(木)の学級PTA時に、「子どものスマホに賛否」という動画視聴を行うとともに、全保護者への動画メール配信を行った。

◆ 課 題

- 少子化の進行で、児童生徒が少なくなっていること、また、児童生徒はスポーツ少年団活動・学習塾・習い事などが優先となるため、地域行事や校区まちづくり協議会の青少年健全育成行事への参加者が年々少なくなる傾向にある。
- 保護者の地域行事や奉仕活動への参加が、平日は仕事、土日祝日は所用ありという理由で年々少なくなっているため、保護者の意識啓発を含め、環境整備が必要である。
- 個人情報保護法の影響で連絡体制が不十分となり、連絡が取りにくくなっている。このため、あいご部役員・会員・保護者等との情報交換、意思疎通が以前に比べて相当疎遠になっている。また、事業実施や運営にも支障・困難が生じている。
- 坂元台小学校PTA活動においては、これからもインターネットの利用に伴う問題やト

ラブルに巻き込まれないよう、「子どもネット依存」に対する考え方を深めていかなければならない。最近では、ゲーム機がインターネットに繋がり、見知らぬ相手と共同で行うゲーム等が増えつつある。保護者も便利なスマートフォンを利用しているが、一方であらゆる危険が子供に迫っていることを認識しなければならない。

(5) 社会教育部会

◆ 成果 明るく住みよい校区づくりのために

- 自分の住んでいる町・場所で、仲間・地域づくりができる社会教育部会のありがたさが感じられた。
- 成人学級・女性学級ともに社会生活上のさまざまな課題を取り上げて、毎月の講座内容に変化があり、教養・学習意欲の向上につながった。
- 社会学級から派生して、奉仕活動へ広がっているグループもできた。
- 日頃学習している成果を「生涯学習発表大会」で、子供から大人まで充実した内容で発表できた。また、出演・出展者ともに、会場準備・運営・片付けに多くの人が協力し、多様な人材が地域にいることをあらためて発見できた。

◆ 課題

- コロナ禍は、地域活動にとっても大きな打撃だった。
- 地域の魅力を、もっと多くの方々に知ってもらいたい。
- 社会教育部会の活動を積極的に発信して、構成団体や実際に活動しているグループとマッチングしながら地域での交流を促進し、校区活動のファンづくりを進める。

(6) 社会体育部会

◆ 成果

- 平成30年度・令和元年度は、校区運動会（約350名参加）、校区親善球技大会（20チーム）、楽しいラジオ体操・ニュースポーツ（いご手玉）等の行事を行うことができた。しかし、令和2年度・3年度は、コロナ感染拡大のために中止になり、なかなか集まることができなかつたが、令和4年度は感染防止対策を徹底し、規模や時間を縮小して実施した。特に校区運動会は500名以上の参加となり、久しぶりに実施できたことと午前中だけの実施としたための高評価であったと考えられる。
- 体育館の夜間開放では、健康づくり（ソフトバレー・卓球・バドミントン）など含めて利用している。

◆ 課題

- 校区運動会や校区親善球技大会は、参加者が偏っている傾向がある。校区の人たちが、もっと気軽に参加できるようなプログラム作りが必要である。
- 校区運動会に、もう少し中・高校生が参加するようにしたい。（学校と話し合いの必要性もある）
- 子供から高齢者まで、誰でも参加できるニュースポーツを広めたい。
- 校区めぐりウォーキング大会は、話し合い・検討はしたが実施に至らなかった。

2 第1期の活動の記録

(1) 定期総会・役員会



(2) まちづくり部会の活動（まちづくりスローガン設置・あいさつ運動・せばる隼人舞）



まちづくり部会（せばる隼人舞）



(3) 安心安全部会の活動（防災研修会・青パト隊・交通事故発生場所にカーブミラー設置）



(4) 福祉健康部会の活動（お達者クラブ・よかよか体操・子育てサロン・ふれりんピック・健康大学）



(5) 青少年育成部会の活動（青少年健全育成推進大会）



(6) 社会教育部会の活動（校区生涯学習発表大会）



(7) 社会体育部会の活動（楽しいラジオ体操・校区親善球技大会・ニュースポーツ・校区大運動会）



Ⅲ 第2期まちづくりプラン

1 協議会の活動方針

(1) 計画の期間 令和5年度～令和9年度 (2023年度～2027年度)

(2) まちづくりの目標

① スローガン

みんなが主役 笑顔あふれる坂元台

② 運営方針

ア 地域住民が明るいあいさつ等ふれあいを大切にした強い絆のもと、連帯意識を持って地域の生活環境の整備を図り、地域が主体となった活気あふれる地域づくりを進める。

イ 校区住民が夢や希望を持ち、共に助け合いながら喜びを分かち合える個性豊かな地域づくりを進める。

ウ みんなで創る地域づくりを基本に、役割を分担し、各専門部会の主体的で積極的な運営に努める。

エ 各種構成団体との連携強化を図り、情報の共有化のため広報誌「せばる」を発行し、効率的な事業推進に努める。

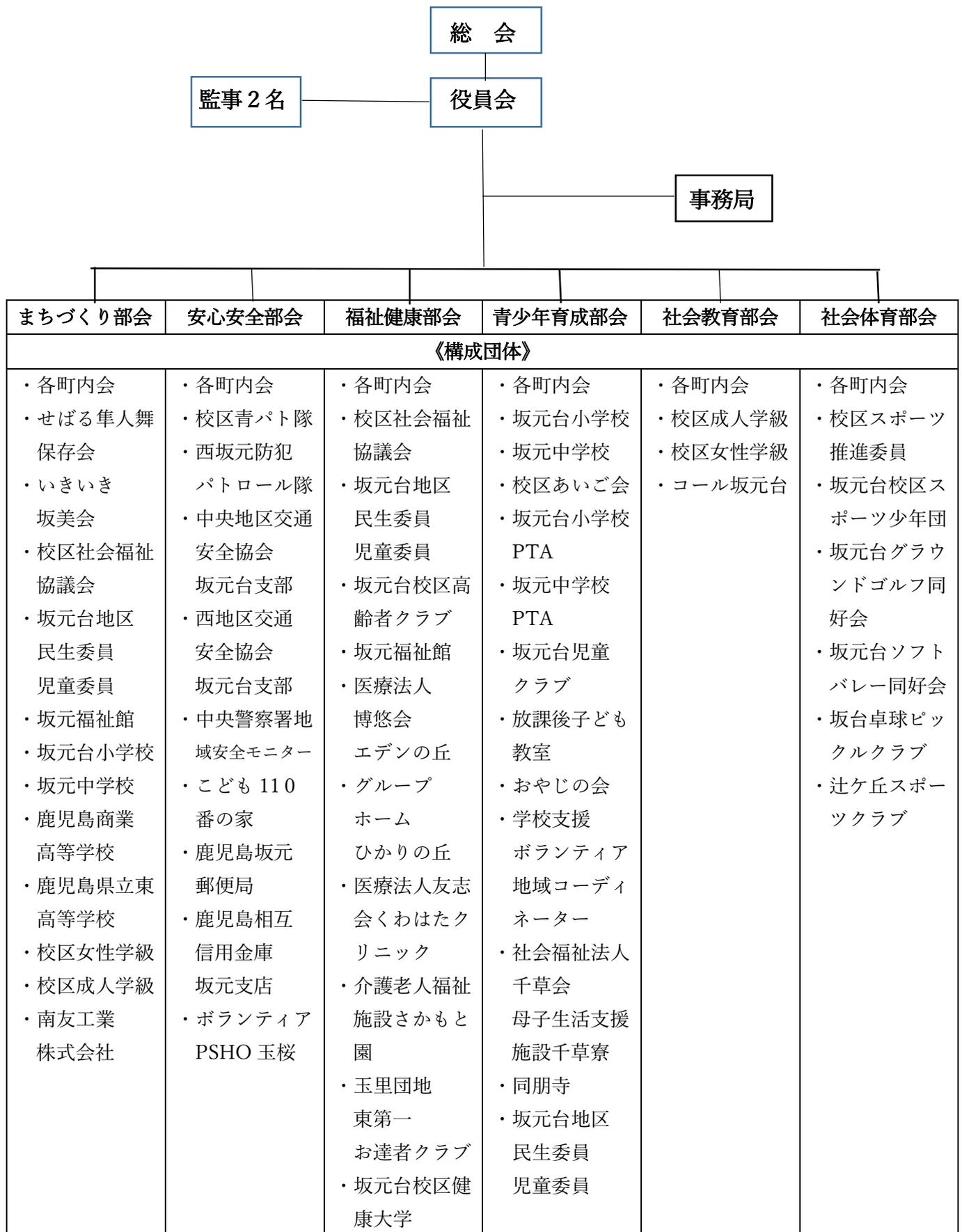
オ 地域の課題や校区住民の意見が反映された「第2期まちづくりプラン」を基に、自助・共助により計画の実現をめざすとともに、関係行政機関との連携（公助）により、活動の充実を図る。

③ 活動重点目標

まちづくりの目標：スローガン「みんなが主役 笑顔あふれる坂元台」の達成に向けて、年度ごとに重点目標（行動目標）を決め、校区民一体となって実行する。

年 度	重点目標（行動目標）・スローガン
令和5年度	「あいさつ運動」 — あいさつは いつでも どこでも 私から —
令和6年度	
令和7年度	
令和8年度	
令和9年度	

2 まちづくり協議会の組織体系図



3 活動の体系表

		基本方針	活動内容	事業名
まちづくりの目標 みんなが主役 笑顔あふれる坂元台	まちづくり部会	住みやすい校区の環境づくりを基盤に、お互いの連帯意識に支えられた活力ある校区づくりのため、課題を的確に捉え、諸施策の積極的な企画や取組を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちづくりの推進状況等を校区の方々に知らせる。 ○ せばる単人舞祭りをを行う。 ○ あいさつ運動を行う。 ○ 校区美化推進活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「広報紙せばる」の発行 ○ せばる単人舞祭り ○ せばる単人舞に親しむ会 ○ あいさつ運動 ○ 校区美化推進活動の日
	安心安全部会	校区内の安心安全の確保のため、火災・地震・津波・風水害等の防災意識の向上や、交通安全・犯罪の未然防止活動、危険箇所点検等を通し、共助の意識の向上を目指すなど、防災・防犯の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災意識の啓発・防災対応を身に付ける。 ○ 犯罪の未然防止活動を行う。 ○ 安心安全なまちづくり活動を行う。 ○ スクールゾーンの点検・改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校区防災研修会 ○ 「青パト」の運行 ○ 安心安全ネットワーク会議 ○ スクールゾーン委員会
	福祉建康部会	子育てへの支援や、高齢者・障害者を含むすべての住民が、支え合い、助け合い、思いやりのある地域福祉社会の形成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢者と子供たちとの交流活動。 ○ 関連団体と連携し、高齢者見守り等について、情報交換を行う。 ○ 介護・福祉等について、理解・実践を深める。 ○ 幼児の健やかな育ちを図るため、育児相談やふれあい活動を行う。 ○ 人と人とのつながりを大切にし、介護予防体操を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ふれあいグランドゴルフ大会・ふれりんピック ○ 町内会長・老人クラブ会長・民生委員連絡会 ○ 認知症・介護研修会 ○ 子育てサロン ○ よかよか体操
	青少年育成部会	次代を担う青少年の健全育成を図るために、家庭・学校・地域が一体となった活動を展開し、地域の教育力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の青少年の健全育成を地域全体で取り組む。 ○ 幼児から高齢者まで一緒に校区内外を語らいながら遠行する。 ○ 各構成団体が主催する子供祭りを支援・協賛し、校区の行事として育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 坂元地区青少年健全育成推進大会 ○ 歩こう会 ○ 坂元台子ども祭り
	社会教育部会	明るく住みよい校区づくりのために、生きがいや地域づくりについて学ぶ風を高める。また、社会の進展に即応できる人づくりのために、生涯学習の推進に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会学級（成人学級・女性学級）の支援活動。 ○ 中央公民館との連携。 ○ 日ごろ学習している成果を発表する機会・場をつくる。 ○ 社会教育について学ぶ機会・場をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会学級（成人学級・女性学級） ○ 中央公民館の行事への参加 ○ 校区生涯学習発表大会 ○ 社会教育研修会
	社会体育部会	校区住民の健康の保持増進とスポーツ活動の推進を図り、併せて校区住民の親睦や健康・連帯意識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康保持増進と校区民の親睦。 ○ 球技に親しみ、スポーツの楽しさを味わう。 ○ 日常の生活の中で運動に親しむ。 ○ 幼児から高齢者まで参加し、ニュースポーツを体験する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校区大運動会 ○ 校区親善球技大会 ○ 楽しいラジオ体操・ニュースポーツ ○ ニュースポーツ体験

4 坂元台校区まちづくりプラン(振興計画)

(令和5年度～令和9年度：5年間)

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容
1	<p>住みやすい校区の環境づくりを基盤に、お互いの連帯意識に支えられた活力ある校区づくりのため、課題を的確にとらえ、諸施策の積極的な企画や取組を進める。</p>	広報活動	広報誌の発行	まちづくり部会	広報誌「せばる」を年1回発行し、まちづくりの推進状況等を、校区民に知らせる。
2		伝統芸能継承活動	せばる隼人舞祭り		毎年11月23日に、坂元台小学校体育館で、坂元台小・坂元中・鹿児島商業・鹿児島東高校・成人同好会による舞を披露する。
			「せばる隼人舞」に親しむ会		校区伝統芸能「せばる隼人舞」の歴史等について理解を深める。
3		あいさつ推進活動	あいさつ運動		まちづくり協議会構成団体が、小・中学校やその周辺において、朝や下校時のあいさつ運動を行う。
4	校区美化推進活動	「校区美化推進活動の日」	「校区美化推進活動の日」を設定し、各町内会等の構成団体と連携して校区一斉清掃を行う。		
5	<p>校区内の安心安全確保のため、火災、地震、津波、風水害等の防災意識の向上や交通安全、犯罪の未然防止活動、危険箇所点検等を通し、共助の意識の向上を目指すなど、防災・防犯の充実に努める。</p>	防災意識啓発活動	校区防災研修会	安心安全部会	消防・警察等の関係機関と連携し、防災・防犯等についての講話・実技研修を行う。
6		犯罪の未然防止活動	「青パト」の運行		通学路・時間帯を検討し、不審者情報等にも注意を払いながら、週1回以上実施する。また、後継者育成を継続的に取り組む。
7		安心安全なまちづくりの活動	安心安全ネットワーク会議		<ul style="list-style-type: none"> 各町内会の防犯パトロールの充実。 「こども110番の家」設置箇所充実 防犯カメラ・防犯灯の設置 危険箇所マップの作成（土砂崩れ・交通事故発生場所等） 空き家の調査と安全対策
8		交通安全・防犯活動	スクールゾーン委員会		夏休み前までに、各地域で実地調査を行い、危険箇所を確認するとともに、年2～3回協議や実地調査を行う。

事業効果	事業種別	事業実施年間評価					備考
		5	6	7	8	9	
各部会の活動状況、構成団体の紹介、校区の様子(活動)を広報することによって、校区まちづくりに対する理解・意識の向上が図られる。	継続						令和4年度よりA3版カラー印刷にし、より見やすく変更した。
青少年の伝統芸能活動を推進することにより、郷土芸能の保存が図られるとともに、地域コミュニティの形成に寄与する。	継続						
「せばる隼人舞」の歴史等を学ぶことにより理解が深まるとともに、郷土愛や誇りを持たせることができる。	継続						
地域の大人と子供がお互いに声かけを行うことによって、連帯意識が向上するとともに、見守り活動による子供たちの安全確保が図られる。	継続						令和5年度重点目標とする。
校区の美化と合わせて、校区全体の一体感を高めながら、まちづくりの推進が広く図られる。	新規						
防災・防犯についての研修をとおして、想定に応じた対応の仕方を身につけることによって、防災・防犯の意識が高まり、校区民が一体となって安心安全のまちづくりが図られることが期待できる。	継続						
青パトの広範囲なパトロールにより、防犯・事故防止及び住民の防犯意識の向上が図られる。	継続						令和3年11月より青パト3台体制とした。
安心・安全なまちづくりを校区一体となって取り組むことにより、一人一人の防犯意識の向上がなされ、防犯・交通安全等に寄与する。	継続						
危険箇所点検を目的に実地調査を行い、危険箇所の改善を行うことにより、児童の交通安全に資する。	継続						

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容
9	子育てへの支援や高齢者・障がい者を含むすべての住民が、支え合い、助け合う、思いやりのある地域福祉社会の形成に努める。	高齢者と子供の交流活動	ふれあいグラ ンドゴルフ大 会 ふれりんピッ ク	福祉健康 部会	社協を中心に、高齢者と子供たちとのふれあいを目的に、スポーツやゲーム等に取り組む。
10		高齢者の見守り活動	町内会長・老人クラブ会長・民生委員長・民生委員連絡会		民生委員・児童委員・各町内会・老人会と連携し、高齢者の見守り等について情報交換を行う。
11		介護・福祉等の研修活動	認知症・介護研修会		校区にある4つの福祉施設の協力のもと、介護・福祉等の実技研修を実施する。
12		子育て支援活動	子育てサロン		東部保健センターの協力のもとに、母親が育児の悩みを相談したり、幼稚園の教諭等に来てもらい、一緒に遊びやふれ合いを楽しみながら学ぶ。
13		健康・体力づくり活動	よかよか体操		東部保健センターの協力のもとに校区・町内会等で週1回以上、介護予防の体操を行う。
14	次代を担う青少年の健全育成を図るために、家庭・学校・地域が一体となった活動を展開しながら、地域の教育力を高める。	青少年育成活動	坂元地区青少年健全育成推進大会	青少年育成 部会	坂元校区・坂元台校区の住民・PTA 会員が一堂に会して、地域ぐるみで青少年を健全に育成するための方策を学習し、日常活動に資する。
15		世代間交流活動	歩こう会		あいご会が中心となって、奇数月に実施。幼児から高齢者まで、一緒に校区内外を、朝7時頃から語らいながら歩く。
16		ふれあい活動	子どもを主体とした祭り等への支援・協賛		各構成団体が主催する子供祭りを支援・協賛し、校区の行事として育成する。

事業効果	事業種別	事業実施年間評価					備考
		5	6	7	8	9	
スポーツやゲーム等をとおして、高齢者と子供たちとの交流を図ることによって、健康で豊かな生活やお互いに助け合う地域福祉社会の形成を図ることができる。	新規						
民生委員、児童委員、各町内会、老人会が一堂に会し、情報交換を行うことによって、高齢者等の見守りや、避難時の支援等を効果的に行うことができる。	継続						
介護・福祉の実技研修を行うことにより、高齢者のこれからの生活や、健康維持が図られる。また、老後に向けて安心して生活できる一助になる。	継続						
育児相談やふれあい活動を地域ぐるみで支援することによって、幼児の健やかな育ちを図ることができる。	継続						
介護予防の「よかよか体操」に地域が一体となって取り組むことによって、地域のつながりを深めるとともに、自分らしく生き生きとした生活を続けられる。	継続						
坂元校区・坂元台校区の協議会構成員が、青少年育成に関して学習し、団体の構成員一人一人が青少年を健全に育成する責任があることを再認識し、それぞれの役割を自覚することができる。	継続						
学校職員・児童生徒・保護者・地域住民が、校区内外を語りながら歩く活動をとおして、校区民の親睦を深めるとともに、体力向上を図ることができる。	継続						
校区での楽しい行事を体験することにより、豊かな心を育み、ふるさとへの愛着を育てることができる。	継続						

番号	基本方針	活動内容	事業名	実施部会等	事業内容
17	明るく住みよい校区づくりのために、生きがいや地域づくりについて学ぶ気風を高める。また、社会の進展に即応できる人づくりのために、生涯学習の推進に努める。	社会学級活動	社会学級（成人学級・女性学級）	社会教育部会	成人男女を対象に、社会生活に必要な教養や資質の向上を図る講座を、年10回開設する。
18		中央公民館との連携	中央公民館の行事への参加		中央公民館主催の文化祭や音楽祭等の行事や講座等に参加する。
19		生涯学習発表活動	校区生涯学習発表大会		実行委員会を設置し、日頃の学習の成果を、舞台発表したり、作品を展示発表したりする。
20		研修活動	社会教育研修会		社会学級生を中心に、社会教育の在り方について、講師を招いて学習する。
21	校区住民の健康の保持増進とスポーツ活動の推進を図り、併せて校区住民の親睦や健康・連帯意識を深める。	スポーツ交流活動	校区大運動会	社会体育部会	幼児から高齢者まで多数が参加し、各町内会対抗で、様々な運動競技に親しむ。
22			校区親善球技大会		まちづくり協議会構成団体が集い、ソフトバレーボール・グラウンドゴルフを実施する。
23			楽しいラジオ体操・ニュースポーツ		毎年、夏休みの初めに開催する。幼児から高齢者までが参加し、ラジオ体操を行う。また、ニュースポーツの紹介と実技を行う。
24			ニュースポーツ体験		幼児から高齢者までが参加し、指導者のもと、ニュースポーツを体験する。

事業効果	事業種別	事業実施年間評価					備考
		5	6	7	8	9	
社会生活上の様々な課題について学習し、必要な教養や知識・技能を習得することにより、その成果をまちづくりの向上に生かすことができる。	継続						
地域公民館の活動に参加することを通して、文化活動の資質向上を図るとともに、他地域との交流を図ることができる。	継続						
自主学习やグループ学習の成果を発表することにより、生涯学習の意欲向上が図られ、校区の文化芸術活動の振興に資する。	継続						
社会教育に関する研修をとおして、リーダーの教育力の向上を図るとともに、これからのまちづくり活動を支える人材育成が図られる。	継続						
校区の人たちの親睦、健康づくり及びまちづくりの推進に資する。	継続						
校区の人たちの健康づくりと親睦を図ることができる。	継続						
夏休みのはじめに、校区の人たちがラジオ体操やニュースポーツをすることによって、健康づくりと、スポーツへの関心を高めることができる。	継続						
幼児から高齢者までがともにニュースポーツを楽しむこととおして、あらゆる世代の交流を図ることができる。	新規						

IV 資料

「第2期まちづくりプラン」策定委員

役職	氏名	役職	氏名
会長	別府 俊昭	社会体育部会長	足立 一代
副会長	後田 逸馬	社会体育部副会長	山下 俊明
副会長	山田 哲夫	社会体育部副会長	寺師 真一
まちづくり部会長	坂口 俊一	社会教育部会長	田口 紀代美
まちづくり部副会長	日高 郷士	社会教育部副会長	西田 利和
安心安全部会長	中原 徳行	社会教育部副会長	大重 美恵子
安心安全部副会長	吉水 實	書記会計	児玉 明
福祉健康部会長	高山 鐵朗	監事	吉國 新
福祉健康部副会長	堂福 政己	監事	前田 武志
青少年育成部会長	大浦 慎太郎	事務局職員	片野田 優子
青少年育成部副会長	田口 昇	事務局職員	中原 真里
青少年育成部副会長	川路 達也		



